

教員養成課程 家庭科、技術・家庭科（家庭分野） の住居領域における学習指導の理論と実践

佐々野 好 継*

Theory and practice of course study about housing
and living science in schooling

Yoshitsugu SASANO

1 はじめに

柴田義松編著：「教育の方法と技術」の中で、柴田氏は「教科の授業における学習指導が成立する際には、次の5つの要素が構造的に関係してくる。a 目標 b 内容 c 指導過程 d 教材 e 授業」である。また、「これらは、それぞれ「目標論」「内容論」「指導過程論」「教材論」「授業論」として、独立した研究分野ともなっている。が、そういうことよりも、これらの5つの観点をもつことによって、教師はより質の高い学習指導を意識的に起こすことができるようになる」と、述べている。

したがって本研究は、小学校・高等学校学習指導要領解説 家庭編および中学校学習指導要領解説 技術・家庭編に示されている住居領域の学習指導を5つの構造要素の視点で読み解き、学習指導要領解説の構造を明らかにする。次に、それに対応した学習指導案のモデルを示すことを主目的とする。ただし、今回は、小学校の家庭科における整理・整頓に関する学習指導の構造とそれに対応した指導案のモデルの一端を示す。

なお、このプロセスは教員養成課程の学生においては、以下の2つの目標が達成される。

1. 学習指導要領解説の構造を読み解くことができる。[理論]
2. 指導要領解説に準拠した授業実践に向けての学習指導案の作成ができる。[実践]

2. 住居領域における学習指導の構造

住居領域における学習指導の構造を把握するために、学校段階を縦軸に、目標と内容の関係を横軸とする2次元配置表の枠組みを設定し、小・中・高校の家庭科における住居領域に関する指導要領解説の具体的な解説文と対応させてみる。その表が表1、表2、表3である。小学校の家庭科、中学校技術・家庭科家庭分野における目標に対する内容構成は、「構成要素—項目—事項」で構成されていることが分かる（表1、表2）。これに対して、高等学校の家庭基礎においては、目標と内容が、「大項目—中項目—小項目」の三段階で階層的に構成されていることがわかる（表3）。

表1 小学校家庭科における住居領域の目標と内容

学校段階	家庭科の目標と内容 (構成要素)	C「快適な衣服と住まい」 (項目)	C(2) 快適な住まい方 (事項)
小学校	<p>(目標)</p> <p>衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にすることを心がけ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。</p> <p>(内容)</p> <p>A：家庭生活と家族 B：日常の食事と調理の基礎 C：「快適な衣服と住まい」 D：身近な消費生活と環境</p>	<p>(目標)</p> <p>衣服の着用と手入れ、快適な住まい方及び製作の実習を、身の回りの快適さへの関心を高め、その大切さに気付くとともに、衣服、住まいおよび政策に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、衣生活や住生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>(内容)</p> <p>(1) 衣服の着用と手入れ (2) 快適な住まい方 (3) 生活に役立つ物の制作</p>	<p>(目標)</p> <p>整理・整頓や清掃、季節の変化に合わせた住まい方に関する学習を通して、日常の住まい方への関心を高め、住まい方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、快適な住まい方を考え工夫する能力を育てる。</p> <p>(内容)</p> <p>ア住まい方に関心をもって、整理・整頓や清掃の仕方が分かり工夫できること。 イ季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること</p>

表2 中学校 家庭的分野の目標における住居領域の目標と内容

学校段階	技術・家庭科家庭的分野の目標と内容(構成)	C 衣生活・住生活と自立 (項目)	(2) 住居の機能と住まい方 (事項)
中学校	<p>(目標)</p> <p>衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能についての理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。</p> <p>(内容)</p> <p>A 家族・家庭と子供の成長 B 食生活と自立 C 衣生活・住生活と自立 D 身近な消費生活と環境</p>	<p>(目標)</p> <p>衣生活と住生活に関する実践的・体験的な学習活動を通して、衣服の選択、着用、手入れと住居の安全で快適な住まい方に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、衣服と住居の機能について関心と理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって衣生活と住生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。</p> <p>(内容)</p> <p>(1) 衣服の選択と手入れ (2) 住居の機能と住まい方の生活の工夫 (3) 衣生活、住生活などの生活の工夫</p>	<p>(目標)</p> <p>住居の機能と住まい方に関する学習を通して、自分や家族の住空間に関心をもち、住居の基本的な機能や安全に配慮した室内環境の整え方を知るとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫できるようにする。</p> <p>(内容)</p> <p>ア 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知ること。 イ 家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できること</p>

表3 高校【家庭基礎】の目標における住居領域の目標と内容

学校 段階	家庭科の目標と内容の項目 (大項目)	(2) 生活の自立及び消費と 環境 (中項目)	(2) -ウ：住居と住環境 (小項目)
高 等 学 校	<p>〔家庭基礎〕 (目標) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p> <p>(内容) (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 (2) 生活の自立及び消費と環境 (3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>	<p>(目標) 自立した生活を営むために必要な衣食住、消費生活や生活における経済の計画に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、環境に配慮したライフスタイルについて考えさせるとともに、主体的に生活を設計することができるようにする。</p> <p>(内容) ア：食事と健康 イ：衣服管理と着装 ウ：住居と住環境 エ：消費生活と生涯を見通した経済の計画 オ：ライフスタイルと環境</p>	<p>(目標) 住居の機能、住居と地域社会とのかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、安全で環境に配慮した住生活を営むことができるようにする。</p> <p>(内容) ア：住居と家族の生活 イ：安全で環境に配慮した住生活</p>

3. 小学校家庭科のC(2)：快適な住まい方における「(ア) 整理整頓の仕方が分かり、工夫できること」に関する学習指導

3. 1 はじめに

ここでは、表1に示すC(2)：快適な住まい方における「(ア) 整理整頓の仕方が分かり、工夫できること」に関する解説文を、5つの構造要素の視点で分析してみる。

a 目標

ここでは、身の回りの物を片付けることによって、気持ちよく生活できることに気づき、身の回りの整理・整頓の仕方がわかり、身の回りを快適に整えようと主体的に考え工夫できるようにする。

b 内容

「整理整頓の仕方が分かり工夫できる」については、児童の身の回りの物、例えば、学習用具、本や雑誌、衣類、洗面所の用具などの整理・整頓を取り上げる。物を使う人や場所、その使用目的や頻度、大きさや形などによって整理整頓の仕方を工夫する必要があることがわかり、何がどこにあるか、必要な物がすぐに取り出せるか、空間を有効に使えるかなどの視点から工夫できるようにする。

c 指導過程

整理整頓の指導に当たっては、身の回りの物の分類の仕方や収納の仕方を考えるなど、児童それぞれの家庭生活に応じて工夫し、実践できるようにする。例えば、教室や家庭科室の学習机や引き出し、本棚や棚、ロッカーなど、学校の施設・設備を用いて実践する学

習が考えられる。また、家族が共通して使う洗面所や玄関などを想定して工夫することや、家庭での様々な収納の工夫を発表しあう活動なども考えられる。

まとめ

「整理整頓の仕方が分かり工夫できること」の解説文が、学習指導が成立する際の構造要素の a 目標、b 内容、c 指導過程で基本的に構成されている。また、c 指導過程の中に、e 教材の要素に関する記述が見られる。

3. 2 整理・整頓に関する学習指導案

(1) 単元名：「整理・整頓の仕方が分かり工夫できること」

(2) 単元設定の理由

1) 教材観

整理整頓についての学習指導には、小学校学習指導要領解説 家庭編 (p41) に「例えば、教室や家庭科室の学習机や引き出し、本棚や棚、ロッカーなど、を用いて実践する学習が考えられる。」の記述が見られる。したがって、本学習指導においては、教室の学習机や引き出し、本棚や棚、ロッカーなどを教材に活用し、実践的・体験的活動を行う。

2) 指導観

小学校学習指導要領解説 家庭編における「まえがき」の②に示す「習得」と「育成」のバランス重視の指導観を導入し、展開する。これが、「生きる力」の育成につながると考えるからである。

3) 学習者観

児童・生徒は、生活に役立つ物は、身の回りを快適にしたり、人とのかかわりを深めたりすることを、(3) 生活に役立つ物の制作や、「生活科」の整理・整頓などで学習してきている。また、「整理・整頓の仕方が分かり工夫できる」の「空間を有効に使う」の空間は、算数・図形・第一学年で「前後・左右など」で学習してきている。

(3) 単元の指導目標

「身の回りの物を片付けることによって、気持ちよく生活できることに気付き、身の回りの整理整頓の仕方がわかり、身の回りを快適に整えようと主体的に考え工夫できるようにする (p41)。

従って、以下に、単元の指導目標を設定する。

1. 身の回りの整理整頓の仕方がわかるように指導する (知識・理解)。
2. 身の回りを快適に整えるための工夫ができるように指導する (思考力・判断力)。
3. 教室の中の机や椅子の配置を主体的に考え工夫することができるように指導する (意欲・態度)。

(4) 単元の構造

単元の教材構造は、図1に示すように整理・分析される。

図1の単元の教材の構造は、まず、単元の指導目標を「整理整頓の仕方が分かる」と、

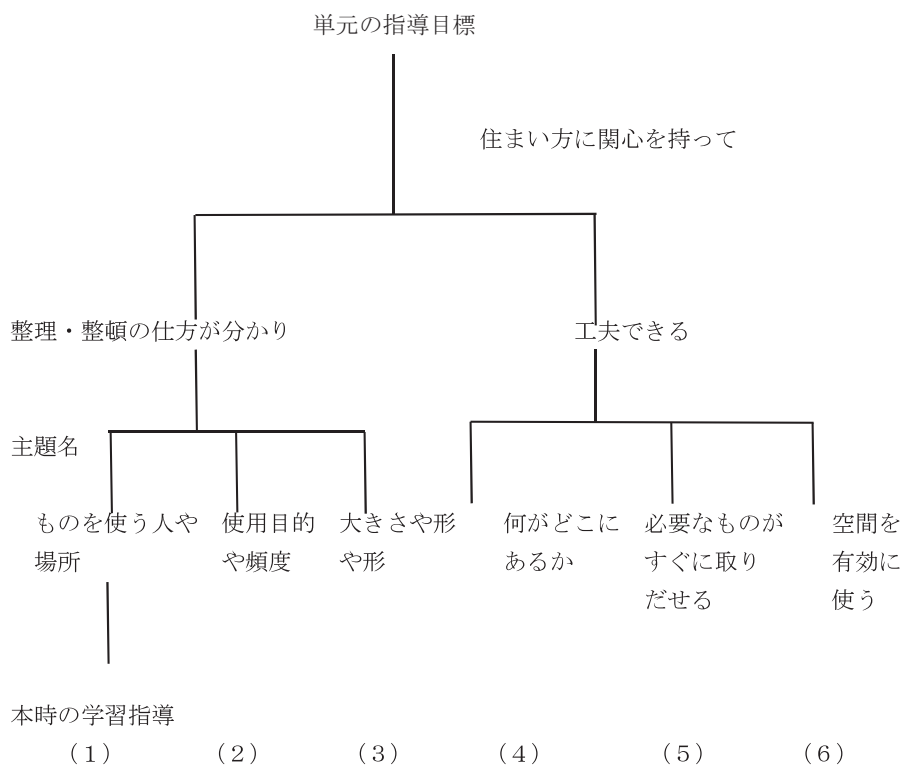


図1 単元の教材の構造

「整理整頓の工夫ができる」の主内容にわけることができる。さらに、「整理整頓の仕方が分かる」は、本時の学習指導の主題目である「物を使う人や場所」、「使用目的や頻度」、「大きさや形」に分けることができる。

(5) 指導計画 (表4)

(4) 単元の構造を参照し、縦軸に、「分かると出来る」の欄を配置し、横軸に「本時の学習指導」の主題名を順序立て配置した2元表を作成し展開する。

表4 指導計画一覧表

学習内容・活動 (学力の3要素)	主題名	本時の学習指導
整理整頓の仕方が分かる (知識・理解)	物を使う人や場所	(1)
	その使用目的や頻度	(2)
	大きさや形	(3)
整理整頓の工夫が出来る (思考力・判断力)	何がどこにあるか	(4)
	必要な物がすぐに取り出せる	(5)
	空間を有効に使える	(6)

(6) 本時の学習指導**1) 本時の学習指導 (1)**

○主題名：物を使う人や場所

○本時の目標：物を使う人や場所によって整理整頓の仕方を工夫する必要があるように指導する。

○本時の展開

学習内容	指導過程		教材 教具	学習 評価
	学習活動	教師の指導		
[導入] 1. 物を使う人や場所 [展開] 1. 物を使う人や場所 (1) 物を使う人 ①家族 ②自分 (2) 場所 ①居間・リビング ②子ども部屋 [整理] 自分一人で使う場所・家族 みんなで使う場所に分けて おおよその場所を決めてお く	家族で使う場所に自分の 物を置いたままにす ると家族はどう思うだ ろう。	今日は物を使う人 や場所によって整 理整頓の仕方を工 夫する必要があるよ うに指導しま す。 物には自分で使う 場合と家族みんな で使う場合とがあ りますね。 これらの物はどこ に置いていますか (発問) (板書)	東京書籍 (p55) 東京書籍	

4 おわりに

今回は、中学校技術・家庭科家庭分野の住居領域における学習指導の理論と実践を展開していきたい。

注

「学習活動」とは、まず、「子どもたちは何をどのように学習するのか」を明記する欄である。これをもう少し細かく分けて、「学習内容」と「学習活動」ないし「学習形態」に二分する見方もある。・・・「学習内容」の欄については、最近は設けていない事例を散見する。おそらく「学習活動」の中に含まれているとの考えからだと推測するが、学習者の「活動」だけしか書いていないケースが多い。学習内容が読みとれないのである。そ

れを防止するためにも「学習内容」欄と「学習活動」欄は分けて設定した方がよい（古藤
泰引編集：学習力を育てる授業—その理論と実践事例 教職研修総合特集 No. 176 教
育開発研究所）。

引用・参考文献

柴田義松編著：教育の方法と技術 学文社 2004年

渡邊彩子監修：新しい家庭 5・6 東京書籍 平成22年

文部科学省：小学校学習指導要領解説 家庭編 東洋館出版社 平成20年

文部科学省：中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 教育図書 平成20年

文部科学省：中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 教育図書 平成20年

文部科学省：高等学校学習指導要領解説 家庭編 開隆堂 平成22年

